愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	舩木 恵一	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

メディアやコンテンツとは「情報発信」であり「共感づくり」である。マーケティングとは「価値を生む仕組みづくり」であり、コミュニケーションの構造を設計することである。この演習は、自ら様々なテーマを設定し、情報発信やコミュニケーションを学びながら、マーケティング思考や手法を用いて、社会課題の解決や共感コミュニティ形成の方法を考察し、その活動を通して共感する力、創造力、表現力を培い、変化に戸惑わず主体性を持って生きる力を身につけることを目的とします。原則として、対面によるアクティブラーニングを主体としますが、愛知県が緊急事態宣言下になった場合は、リモートによる授業に移行します。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	アクティブラーニング手法として①グループ討議やディベート、②学生自身のテーマ設定による研究対象の選定、③学生発表を中心に演習活動を行います。また他演習とのゼミ交流も行います。前期終了時点において、個人及びグループによる研究のテーマ設定までをゴールにします。リモート授業は主に個人研究テーマのディスカッションや研究指導を中心に行います。リモート授業は最大7回までとします。下記の授業設計はゼミで討議の結果、順序や頻度が変更される場合があります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション～ゼミ活動の目的と取組方法について。個人面談の日程調整。	講師及び学生の自己紹介、演習の狙い、学生の到達目標、アクティブラーニングの理解、各回の取組、成績評価基準等の説明。さらに個人面談の日程調整を行います。（4～5月上旬に面談実施予定）	□
第2回	環境問題やSDG'sなどの国際探究活動、AI・VRや自動運転などの最新技術研究の領域において演習や個人で取り組むべきテーマを討議する	グループに分かれ学生中心に研究対象やテーマの討議を行う。何に関心があり、どのようなテーマが面白いか、演習活動や個人研究の設計を試みる。①と②	□
第3回	ICTやエンタメなどの産業研究、プラットフォームやキャッシュレス等の新ビジネスの収益構造分析など、進路選択に役立つテーマを探る	前週に続き、グループに分かれて、学生中心に研究対象やテーマの討議を行う。引き続き演習活動や個人研究の設計を試みる。①と②	□
第4回	コンテンツ、哲学、宗教や心理学など、人間力を向上させる教養について学ぶべきテーマを討議する	世界の主な宗教、哲学や影響を与えるコンテンツなどを俯瞰し、感性を磨く教養を身に付けるため、理解や体験を深めるべき事柄についてグループで討議する　①と②	□
第5回	学生発表	第2回～第4回で討議した内容について、グループ及び個人で学生発表を行う③。注：グループメンバーは都度変更します	□
第6回	他ゼミ交流準備	留学生との交流の準備として、中国人学生にお勧めの観光地やコンテンツ作品などの日本文化を紹介する準備に取り組む　①と②	□
第7回	他ゼミ交流会	留学生との交流会を実施する（相互プレゼンテーション）	□
第8回	ブレーンストーミング、KJ法などのアイデア開発と整理メソッドに挑戦	グループにてアイデアを生むミーティング手法とその後の整理方法を体験する②	□
第9回	ブランドピラミッド、ブランドキャップ、ヘッドラインなど外資系企業のアイデア開発と整理メソッドに挑戦	外資系コンサルや広告エージェンシーで用いる発想法を体験し、アイデア開発のテクニックを学ぶ	□
第10回	今さら聞けない、SWOT分析、ポジショニング分析を復習する。ついでにPEST分析や3C分析も復習する	グループに分かれ、実際の事例に基づき、主要な分析方法であるSWOTやポジショニング分析を行い発表する　①と③	□
第11回	他ゼミ交流	他ゼミと共同活動にて、マーケティング課題に取り組む 店頭などの現場観察調査を予定　②	□

第12回	他ゼミ交流	取り組んだマーケティング課題を発表する 観察調査の結果発表　③	□
第13回	反転授業手法にて、会社組織と意思決定、バリューチェーンを理解する	各自予習にて様々な企業の組織を調べ、主要企業にはどのような組織があり、どのように運営されているのか、各部門の機能と役割はどのようなものがあるのか、組織行動を発表する　②と③	□
第14回	クリティカルシンキングに挑戦。どうしておかしな文章になるのか Xさんの推薦状を読み解く	実際の企業での中途採用を想定した人事部長の推薦状をもとに、論理的思考の重要性を検証する。グループワークと発表　①と③	□
第15回	前期演習の総括と夏季活動について	前期の演習活動を振り返り、夏季から後期へ向けての活動計画を討議する。同時の各個人の研究構想（テーマや内容）などを報告する	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

演習のテーマに関して授業前に予習や準備活動を行います（2時間程度）、演習終了後、課題の取組を通して演習内容の確認や関連知識を自ら補うなど、各自で復習を行い（2時間程度）、テーマに関する理解をさらに深め、自分の考え方を明確化します。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

LMSを通じて課題の提出～添削や採点の上、返却します。講義時間内での質問に加え、メールでの質問を受け付けます。またオフィスアワーを利用して、研究室にて面談も可能です。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019地域ビジネスDP2	企業経営を社会全体との関連で幅広く思考し、多面的な判断の上、時分の考えを発信できる
主体性	◇ 2019地域ビジネスDP3	さまざまな個性・利点・問題点を抱えた地域におけるビジネスを通じ、多様な人々と協働し、地域とつながり、地域社会の活性化・発展に貢献できる

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験とは出席点ではありません。アクティブラーニングの①～③の取組に関して、積極性・貢献性・自主的な役割分担の意思、成果として意見表明の表現力や、口頭発表の姿勢などの学修態度と、課題提出の状況（期限を守り、主題の意図理解、思考内容）を総合的に判断します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。参考資料は必要に応じて講師が用意します。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		